**阿部年金労務管理研究所**

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: abenenkin@ybb.ne.jp<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>**次世代育成支援・・・人口減に対応(その2)**

前号「耳よりな話」N.44にて日本の人口減少に対処するためのいろいろな次世代育成支援策についてご紹介しましたところ、多くの反響、ご意見をいただきました。少子高齢化には多くの人が関心を持っているようです。ありがとうございました。その一部をご紹介します。

* 前回紹介の支援策のうち、出産育児一時金については健康保険から3万円が増額支給され、産科医療補償制度に加入することによってリスク分散がなされています(運営主体は日本医療機能評価機構ですが、損保会社が裏打ちしています)。

熊本 尚綱大学学長 大羽 宏一さんからご自身がお書きになった本制度に関する論文をお送りいただきました。一部を抜粋して概略を紹介します。

少子化の原因の一つに、産婦人科医師の減少があります。さらにその減少の要因には、分娩異常の際の医師、妊産婦・家族間のトラブルがあると言われています。

そこで2009年1月に産科医療補償制度が発足しました。

産科医療補償制度の概要：

- ・ 制度の目的・・・分娩に関連して発生した重度脳性麻痺児に対し補償する。
- ・ 制度の仕組み・・・健康保険組合側が妊産婦に対し出産育児一時金の増額支給により損保加入し、万一のとき準備一時金(看護・介護の基盤整備)600万円、補償分割金年120万円を20年間支給する。
(合計3,000万円)
- ・ 補償対象・・・分娩により、出生体重2,000g以上、在胎週数33週以上で出生した児に、分娩によって身体障害者1・2級相当の重度脳性麻痺が発生し、評価機構が補償対象として認めた場合。

以上の制度発足に伴い、産婦人科医減少に歯止めがかかる効果が出てきており、今後は妊婦、

患者、医療者がともに安心して出産、治療に臨めるように、また重度脳性麻痺児だけでなく医療事故全般に無過失補償制度の拡大を図ることが望まれます。

大羽 宏一（おおば ひろかず）さんの略歴

一橋大学商学部卒業、日本火災海上（株）総合企画部長、大分大学教授、同名誉教授
（現在）尚絅大学学長

製造物責任法（PL法）の我国の代表的研究者として多数の著書があります。

著書についてもっと詳しいことを知りたい方は、インターネットで「おおば ひろかず」さんを検索してください。

その他のご意見をご紹介します

* 今回のニュースは大変興味深く読ませて頂きました。私が子育てした頃は全てに於いてもっと厳しい状況でした。でも経済的にも又職場の働く環境は今の若い人たちには私達の頃より 厳しい状況だと思います。

若い人達に支援の制度が充実し希望を持って働き続ける事が出来るなら素晴らしいと思いました。

でもその恩恵に浴すことが出来る人は或る程度の企業にいる人でないと叶わないのかしらと少し心配です。（千葉市 女性）

* 実際には種々の支援策が整備されていて驚きましたし、良く分かりました。若い世代へ大いに期待したいと思っています。（東京 男性）

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。



前号「耳よりな話」N.44にて将軍の呼び名や御台所について記述したところ、多くの反響をいただきましたので、今回さらに追記します。

3代将軍家光以降の将軍の正室は宮家（伏見宮、有栖川宮、閑院宮、桂宮）と五摂家（近衛、一条、二条、九条、鷹司）の姫君から選ばれることは前述の通りですが、皇女が降嫁した事例

があるのはご存知のとおりです。14代将軍家茂には内親王の和宮が降嫁しました。

また、この例外として島津家から二人の御台所が出ています。

* 13代将軍家定の御台所2名が相次いで死去したため、その後篤姫（天璋院）が家定の正室となりました。篤姫は島津家分家の今和泉家に生まれましたが、薩摩藩主島津斉彬の養女、さらに近衛家の養女となった後、御台所となりました。

* 11代将軍家斉は8代将軍吉宗の孫として一橋家に生まれましたが、10代将軍家治には嫡男家基がいたため、将軍になる目はありませんでした。

15歳のとき御三卿の一人として薩摩藩主 島津重豪（しげひで）の娘 茂姫を正室として迎えることになり婚約が成立しました。

ところがその婚約中に11代将軍になる予定であった家基が急死したため、家斉が11代将軍になることが決まりました。

そこで茂姫は急遽、近衛家の養女となった後、家斉に嫁ぎ御台所となりました。

この11代将軍家斉は50年以上将軍の座にあり、55人の子供がいたことで有名です。その子供達の養子先、嫁ぎ先については強引に事を運び、老中など幕閣も頭を悩ませました。

何しろ、将軍の子供達ですからそれ相応の大家と婚約しなければ釣り合いがとれません。有力大家とはいろいろ軋轢・悲劇があり、押しつけられた大家にとっては大変迷惑だった様です。

いずれにせよ島津家から2名の御台所が出ていることを紹介しました。

徳川将軍15人のうち、正室（御台所）の子で将軍になったのは、3代将軍家光だけです。15代将軍慶喜は水戸藩主徳川斉昭の正室の子として生まれ、一橋家の養子となった後、将軍になりました。

3代家光、15代慶喜以外の将軍はすべて側室の子です。

ついでに悲話を一つ。

7代将軍家継は6代将軍家宣の死去を受け、5歳で7代将軍になりました。正室としては初めての皇女、八十宮（やそのみや）内親王との婚儀が整っていました。ところが家継はわずか8歳で急死したため、八十宮は京都から江戸に下ることもなく、5歳で未亡人になってしまい、その後45歳で死去するまで京都で未亡人として過ごしました。

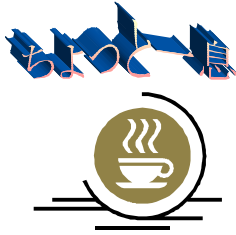
この場合は、御台所と呼ばれず、御簾中（ごれんちゅう）と呼ばれました。

前述のとおり、将軍の正室は御台所と呼ばれますが、将軍世嗣、御三家、御三卿の正室は御簾中（ごれんちゅう）と呼ばれました。

また家継の死去により3代将軍家光の正統な血統は絶えました。

余談ですが、この家継の急死に関連して江戸城大奥の話題が世間を賑わせました。江島生島（えじまいくしま）事件です。これは6代将軍家宣の御台所 天英院と家継生母の側室 月

光院との大奥騒動に始まり、月光院に仕えた大奥年寄江島と歌舞伎役者生島新五郎とのスキャンダルの結果、江島が信州高遠に流された事件です。



第一生命が毎年「サラリ - マン川柳コンクール」を発表しています。傑作をご披露します。
(本件は第一生命様から転載の承認を得ております)

昼食は妻がセレフで俺セルフ
一夢庵

年金は いらぬ人が 制度決め
元平社員

片付けろ！ 言つてた上司が片付いた
清掃業者

パバになり 思わぬ部下に「いいでちゅよー」
愛娘命課長

痩せるツボ 脂肪が邪魔し 探せない
雪乃このひとりごと

第十九回 第一生命サラリーマン川柳コンクールより